

CO₂の新たな吸収源

ブルーカーボンで世界をリードせよ!

ブルーカーボンとは?

海中でのCO₂の吸収・固定のこと。
2009年の国連環境計画 (UNEP) で新しい吸収源の選択肢とされました。
日本は2050年カーボンニュートラルを宣言し、脱炭素社会を目指しており、ブルーカーボンは新たなCO₂吸収源として注目が集まっています!

CO₂吸収・貯留のメカニズム

単位: 億tC/年

51 大気に残り地球温暖化の要因となる

CO₂ 94 億tC/年

グリーンカーボン

19

ブルーカーボン

25

面積あたりのCO₂貯留速度

25倍

藻場 熱帯林・温帯林

地球上における藻場の面積

1/100

森林で吸収されるCO₂

海水に溶け込む

海の生物を通じて吸収・貯留されるCO₂

ブルーカーボン生態系

吸収

1.9

貯留

海底に蓄積

貯留

流れて深海に蓄積

海草の藻場 (アマモなど)

海底が巨大な「炭素貯留庫」に

根で体を固定 葉の部分で栄養を取る

砂泥の海底に生え 根から栄養を取る

海藻の藻場 (コンブなど)

流れ藻は深海に堆積

マングローブ 大型植物として多くのCO₂を貯留

干潟・湿地 泥の中にブルーカーボンを貯留

島国日本はブルーカーボンの宝庫

日本の海岸線の長さ 約35,558km

世界第6位!

地球一周の8割以上!

世界をリードするチャンス!

今後の課題

国だけでなく市民の参加が大切!

CO₂吸収量の評価方法や技術確立

知名度が低い 普及啓発が必要

藻場は海のゆりかご

藻場は多様な生物を育み、暮らしを豊かにします。ブルーカーボン生態系は地球温暖化を抑制するだけでなく、さまざまな恵恩(ベネフィット)を私たちにもたらします。

教育

水質浄化

水産資源

レジャー

今こそ私たち一人一人がブルーカーボンの重要性について認識し、取り組みに参加することが求められています!